

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証 学校の概要

住吉小	学校
-----	----

児童数	55
-----	----

## 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.84	22.53	30.00	38.60	39.95	9.55	139.60	18.74	49.56
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	15.44	18.88	33.79	36.54	30.13	9.94	132.63	12.68	50.91
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

## 結果の概要

本校5年生男子の体力合計点は昨年度より向上し、大阪市平均および全国平均との差は縮まりました。特に20mシャトルランやソフトボール投げでは記録の改善が見られ、持久力や投力の向上がうかがえます。一方で、握力や反復横跳びについては依然として市・全国平均をやや下回っており、基礎的な筋力や敏捷性のさらなる向上が求められます。全体としては、体力の底上げが進みつつある状況です。

アンケート結果では、「運動が好き」と答えた児童の割合が昨年度より増加し、市・全国平均との差も縮小しました。「やや好き」と回答した児童も引き続き多く、全体として運動に対する肯定的な意識が高まっています。また、「運動が嫌い」と答えた児童は引き続き少数であり、学校での取組が意欲面の向上につながっていると考えられます。

1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は昨年度より減少しましたが、依然として市・全国平均と比べると高い状況です。体育の授業や行事での運動機会は確保できているものの、日常生活における継続的な運動習慣の定着には課題が残ります。今後も学校内外での運動機会の充実が必要です。

## これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

これまで本校では、体育授業の工夫や朝の縄跳びタイムの実施などを通して、基礎体力の向上に努めてきました。その結果、持久力や投力を中心に数値の改善が見られ、一定の成果が表れています。また、児童の運動に対する意識も前向きな傾向が強まり、主体的に活動へ参加する姿勢が育ってきました。

しかしながら、運動時間が少ない児童が一定数存在することや、筋力・敏捷性に課題が見られることから、日常的に体を動かす習慣づくりが今後の重要な課題です。今後は、短時間でも継続できる運動プログラムの充実や、家庭と連携した取組を推進し、児童一人ひとりが楽しみながら体力向上に取り組める環境づくりを進めていきます。